

共愛学園前橋国際大学

平成 26 年度
大学改革推進事業
(大学教育再生加速プログラム)
実績報告書

平成 27 年 3 月

共愛学園前橋国際大学の「大学教育再生加速プログラム」(AP)

共愛学園前橋国際大学は「学生中心主義」と「地域との共生」を行動指針に掲げ、既にアクティブ・ラーニング (AL) を用いた授業に全専任教員が主体的に取り組んできました。また、教育環境においては、大学全域に無線 LAN を完備し、全学生に小型携帯端末を持たせるユビキタスキャンパスを構築したり、全国に先駆けて AL 専用に設計された学舎 KYOAI COMMONS を建設したりするなど、学生主体の学修に注力してきました。AP ではこの先進的な教育をさらに充実・発展させて学修質保証システムを構築し、自律的学修者の育成とエビデンスに基づく検証・改善を行います。

以下、AP の事業計画および平成 26 年度に実施した取組について報告します。

<目次>

I. AP 事業計画

II. 学修質保証システム基盤整備

II-1 学生の学修行動の可視化にむけた取組

シラバスシステムの改修

授業アンケートシステムの改修

II-2 学生の学修成果の可視化にむけた取組

図書館学術情報システムとポートフォリオシステムの導入

II-3 学修支援の人的システムの充実

図書館員等スキルアップ研修の実施

III. 学修の達成目標の明示

ディプロマポリシーの検討と学修成果指標の基礎研究

IV. アクティブ・ラーニング (AL) 充実に向けた環境整備

ICT 学習室における AL のための環境整備

V. 学修成果達成度による教育改善

ステークホルダー調査

FD 研修

視察

明治大学図書館/立教大学図書館/新潟大学 FD フォーラム/関西国際大学/

同志社大学シンポジウム

VI. その他

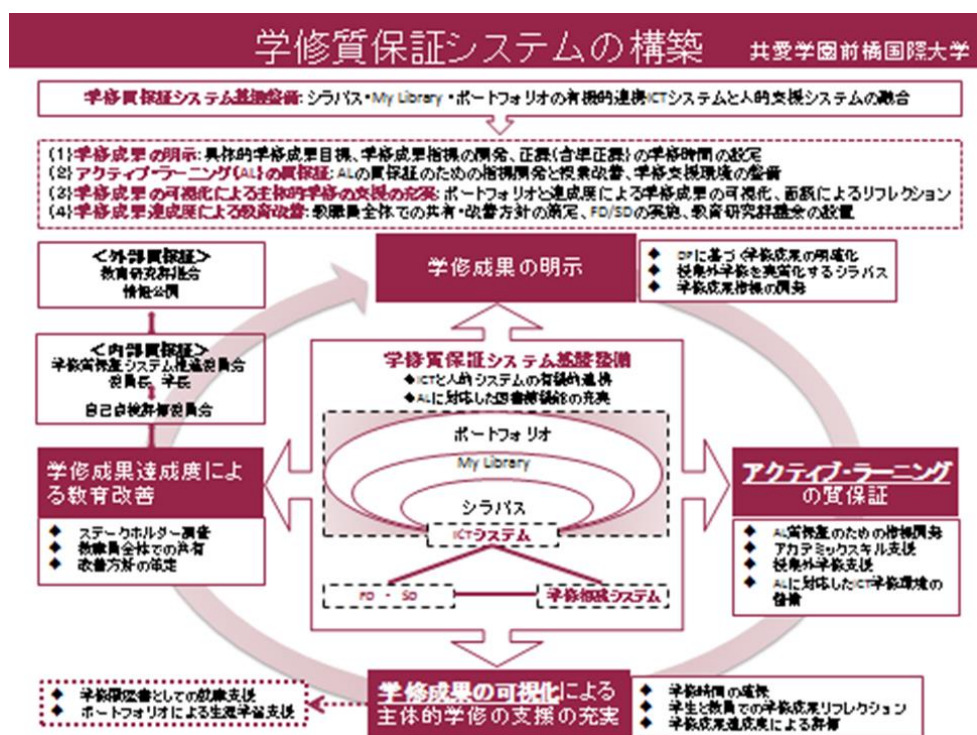
広報

I. AP 取組みの事業計画

平成 26 年度「大学教育再生加速プログラム」に採択された本学の取組は、AL の質保証と学修成果の可視化に取り組むことで、学生が自ら学び得た知を体系化し構築することを支援するとともに、教育の質保証の向上をめざすものである。

よって、本事業では、「学修質保証システムの基盤整備」を中心に据え、①学修成果の明示、②AL の質保証、③学修成果の可視化による主体的学修支援の充実、④学修成果達成度による教育改善を連続して展開し、「学修の質保証システム」を構築する。

これにより、今後ますます増加が予測される海外の大学や地域社会をキャンパスとする学びに対する質保証が可能となる。同時に、学修成果の可視化によって学修の質保証が進み、自律的学修者の実質的な育成が期待される。具体的には、学修質保証システムの一部を構成するシラバスを中心とした ICT システムの構築は、学生自身が獲得すべき知識を体系化する力を高めるとともに、エビデンスに基づいて自己の学修成果を評価できる能力を強化することが期待できる。学修質保証システムのもう一つを担う学修相談システムの構築は、教職協働で学生のニーズに合わせた学修支援を提供することで、学生を中心とした学修環境の充実が期待できる。また、AL の質の向上は、何を学んだのかの振り返り、自ら知を体系化することを可能とする批判的思考力を身につけるために不可欠であり、21 世紀を生き抜く力の獲得が期待できる。これらの取り組みの結果として、授業外学修時間の確保に役立つことが期待できる。



平成 26 年度の補助事業実施計画

1	09 月	・AP 推進委員会の設置 AP 推進委員会は全学的推進機構であることから、学長のリーダーシップにより学内各部署を連携させ、全学的に改革を推進するためのガバナンスを強化する。
2	09～03 月	・本事業に係るフライヤー等の作成・配布、その他の広報活動 本学の取組みを社会に公表するだけでなく、文部科学省の大学教育再生加速プログラムそのものについても広く広報することを通して、今後の大学改革の社会的環境を整える。
3	10～01 月	・シラバス・授業アンケートシステム改修 シラバスシステムを改修することで、既存のシラバスの内容を充実させるとともに、課題図書・参考図書等の情報と図書館学術情報システムとの連携が可能となり、来年度用のシラバス作成から新システムの利用を開始できる。アンケートシステムの改修により、授業外学修時間等、授業の質を高めるための情報を得るとともに、学生にフィードバックすることで授業および学生の学修の改善を行う。
4	10～03 月	・図書館コンテンツ管理専門員の採用および図書館員等のスキルアップ研修の実施 本年度から図書館コンテンツ管理専門員を採用することで、図書館機能の強化と教務システムとの連携という本構想の盤石な基盤を整える。図書館コンテンツ管理専門員が中心となり学修相談システムの準備を進め、学生の主体的学修を推進する。また、図書館員等のスキルアップ研修を開始することで図書館機能の向上を図り、学生の授業外学修の充実が期待される。
5	12 月	・図書館学術情報システムとポートフォリオシステムの導入 図書館学術情報システムを新規導入することで、マイライブラリー機能が新たに利用できるようになるため、学生の図書館利用サービスを向上させる。ポートフォリオシステムの導入により、学生に対する学修成果の可視化の環境を整え、主体的な学修に対する利便性を高める。
6	10～03 月	・ディプロマポリシーの検討と学修成果指標の基礎研究 ディプロマポリシーの見直しを進めるとともに、来年度以降の学修成果指標の開発のための準備を推進する。また、これまで取り組んできたグローバルポイントの検証を進め、本構想でより精度を高めて開発する学修成果指標の要件の検討等、基礎研究を進める。
7	11 月	・ICT 学習室にAL 仕様の什器を設置 ICT 学習室はAL 型授業を実践しにくい環境であるため、AL 仕様で学習環境を整備することで、パソコンを活用した授業におけるAL の取組を強化する。
8.	11～02 月	・AL に関する基礎研究の推進とセミナーの実施 フロー指数の開発のための基礎研究を進めることにより、AL の授業改善の基礎資料を得る。また、FD セミナーを教員全員参加で実施することで、これまで実践してきたAL の質の向上につながる知識・理解を高め、本取組に対する共通理解を図る。
9	10～03 月	・授業アンケート・学修行動調査・卒業生調査の項目の検討・実施 学修成果の可視化を推進する授業アンケート・学修行動調査・卒業生調査の内容を検討し実施する。授業外学修時間の調査方法を検討して調査を開始するとともに、現段階における学修の到達度に関するデータを収集し、次年度以降の学修成果指標の開発と教育改善のための取組を推進する。
10	02 月	・他大学の視察 本学の事業に示唆の大きい先進の他大学への視察研修を実施する。

シラバスシステムの改修

[illegible]授業外学修時間と
自習の合計時間数

1. この授業に意欲を持って取組みましたか
2. この授業をどのくらい欠席しましたか
3. この授業の難易度はどうでしたか
4. あなたの将来にとって必要な授業だと思いますか
5. 授業は興味の持てる授業ですか
6. あなたは、この授業に関して、授業時間以外に、平均して週にどのくらい学修しましたか？（授業時間以外の学修＝予習、復習、宿題、課題、発表のための準備、レポート提出のための準備、ミニテスト等のための勉強、自主的な勉強）

Ⅱ-2 学生の学修成果の可視化にむけた取組

図書館学術情報システムとポートフォリオシステムの導入

本学に合わせた図書館学術情報システムの検討を行い12月に導入、2月から稼働をはじめた。新しいシステムでは、群馬県内の図書館横断検索等が可能となり、文献情報検索が高度化した。また、学生のマイページから図書の貸出予約が可能となるとともに、読書履歴が確認できるようになった。

ポートフォリオシステムの導入にあたっては、学生が学修成果を蓄積するだけでなく、自己の成長を自己評価するためのエビデンスとして活用できるように有用な項目構成の検討を行なった。特に、本学のポートフォリオは、学生の学びや成長を授業だけでなく大学生活全体で評価できるシステムとして開発した。そのため、授業の振り返りだけでなく、学内活動、学外活動、取得資格、読書履歴、1年間の学修を振り返りが記述できるスペースを設けた。このシステムを利用することで、生涯にわたって学び続ける自律的学修者の育成のための活用が期待できる。

本システムは ITC と連携を図りながら3月に導入し、一部学生に対する試験運用を開始した。利用開始にあたり、学生が実際にシステムを利用して操作性等を検証し、来年度の本格稼働に向けた改善点を明らかにする検討会を実施した。



図書館学術情報システム (OPAC)



ポートフォリオ運用にあたり、学生参加で検討会を実施



図書館学術情報システム (横断検索)

Ⅱ-3 学修支援の人的システムの充実

図書館員等スキルアップ研修の実施

図書館の効果的な利用を高めるために、11月から図書館コンテンツ管理専門員を採用した。図書館の新たな広報活動や学生ウェブへの情報提供を開始するとともに、来年度に向けて図書館活用促進の検討を行なった。

2月には図書館員等のスキルアップ研修として、学修相談システムのためのレポート支援研修を実施（学生15名、図書館職員3名、教員1名参加）し、来年度より実施するライティングピアチューターの活動を開始できるように準備を開始した。3月には高等教育情報リテラシーに重点おいたスキル向上のための研修を実施した（図書館職員3名、教職員2名参加）。

研修により得た知見は、次年度から実施を予定している学修支援システムで図書館から学生への質の高いサービスの提供と学生自身の主体的な学修の促進を図る活動に役立つことが期待できる。



図書館利用案内の作成



ピアチューター研修(2月)



司書研修(3月)



Ⅲ. 学修の達成目標の明示

ディプロマポリシーの検討と学修成果指標の基礎研究

学修成果指標の基礎研究を踏まえ、本学が育成する人物像を明確に示すディプロマポリシーとなるように内容及び表現の見直しを行った。ディプロマポリシーは6項目から4項目に整理され、学修評価指標に活用できる形になった。これはAP推進員会で検討したのち、教授会及び全教職員によるスタッフ会議で承認された。これに基づき、次年度は学修成果指標およびそれを評価するためのコモンルーブリックを作成することも了承された。

ディプロマポリシー

本学は、学則に定める在学期間を満たし、かつ共愛コア科目・外国語科目・専門科目・演習科目・个性的選択科目などからなる所定の 124 単位を修得した学生に対し、下記に掲げる能力を獲得したと認定し、学士（国際社会）を授与します。

1. 地域社会の諸課題への対応能力
2. 国際社会と地域社会の関連性についての識見
3. 問題を発見し解決するための分析能力・実践的技能
4. 国際化社会に対応できる十分なコミュニケーション能力

Ⅳ. アクティブ・ラーニング(AL)充実に向けた環境整備

ICT 学習室における AL のための環境整備

本学では既に AL 専用の学舎である KYOAI COMMONS（4 号館）の教室だけでなく、1 号館の普通教室を AL に適した什器に変更し、新たな機器等を設置してきた。AP では、これまで AL 仕様に改修されていなかった ICT 学習室（PC 演習室）を、PC を活用しながらグループワーク等が実践できるように、AL に適した什器を新規に設置した。



ICT 学習室（PC 演習室）でグループワークに取り組む様子

V. 学修成果達成度による教育改善

授業アンケート・ステークホルダー調査

授業アンケート・学修行動調査・卒業生調査の内容を検討し実施した。それぞれの調査により現段階の本学の教育による達成度のデータが収集できた。これらのデータは、学修成果指標の開発と教育改善のための有効な資料として活用する。今後は継続的な調査を実施してデータを集積し、教育改善に役立てる。

卒業生調査は卒業生全員を対象として 2489 人に調査協力の依頼書を送付し、WEB を利用した回答を求めた結果、166 人分を回収した。今後はより回答率を高める調査方法を検討する。

FD 研修

AL の質を高めるための FD 研修として AL セミナーを教員全員参加で実施した。大学教育におけるジェネリックスキル（汎用的能力）の育成・評価と AL に造詣が深い、九州国際大学教授の山本啓一先生を招聘し講演会を開催した。セミナーでは、AL とジェネリックスキル（汎用的能力）の育成との関係や、AL における多様な評価方法と学生が自ら学び続けるための評価のあり方について学ぶことができた。

また、講演会の前には山本先生と学長をはじめとした AP 推進委員会のメンバーで意見交換会を実施し、来年度に向けたカリキュラム改善および評価に関する示唆を得た。

【開催概要】

テーマ 「AL とジェネリックスキル～学修評価制度の構築」

講師 山本啓一氏（九州国際大学）

日時 2015 年 2 月 25 日（水）13：30－15：30

場所 共愛学園前橋国際大学 3 号館 3101 大講義堂



山本啓一先生によるセミナーの様子

視察

他大学の学修支援の取組について学ぶため、FD フォーラムへの参加や先進的な学修支援と環境整備を行っている大学への視察を実施した。加えて基礎研究の資料とするためのフォーラムにも参加した。視察やフォーラムの参加を通して本事業を担当する教職員が有意義な知見を得るとともに、学生が実際に必要としている教育環境についての情報を収集することができた。

- ・立教大学図書館（2014/11/13）
- ・新潟大学FD フォーラム（2014/12/8）
- ・明治大学図書館（2014/12/11）
- ・甲南女子大学（2014/12/22）
- ・関西国際大学（2014/12/22）
- ・同志社大学 コンソーシアム京都（2015/2/28）
- ・八戸工業大学「大学教育再生加速プログラム」選定取組についてのフォーラム（2015/3/16）

VI. その他

広報

11 月に本事業の趣旨や取組内容を広報して理解を得ながら事業を推進するために、本事業のフライヤーを 10000 部作成し地域へ配布した。（県内外高校 500 校、オープンキャンパス配布 100 部、個人資料請求 2000 部、学内イベント配布 2000 部、学長等の招聘講演等での配布用予備 3000 部）

また、新しく始まる本学の取組を在学生に広報して周知することにより、学生自身へ今後の学修に対する取組方を考える機会を提供することができた。同時に、文部科学省としての取組、大学再生加速プログラム事業そのものについても広く広報することを通して、大学教育改革に対する知見を広げることが出来たといえる。また、H27 年度入学予定者、本学への入学を検討している県内外高校生にも告知・配布しているため、未来の高等教育を受ける学生に対する意識変化をもたらすことが出来たといえる。

